

日本におけるパラクライミングの発展過程と現状について

佐 藤 建（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会理事）

1 はじめに

障がい者と健常者というように人を区別して語るのは本意ではないが、本稿ではあえて障がい者のクライミング競技ということで話を進める。オリンピック・パラリンピックのように別々の大会ではなく、将来は一つのオリンピック大会に障がい者と健常者が共に参加し、そのスポーツクライミング競技の一つとしてパラクライミングが実施されるべきと考える。

パラクライミングとはパラスポーツの一競技で、登山研修vol. 38で取り上げられた障がい者登山支援のようなフィールドが山でのロッククライミングには言及しない。東京オリンピックから採用されたスポーツクライミング競技のパラリンピック版であるが、パラクライミング競技はまだパラリンピックの競技種目には採用されていない。パラクライミングは健常者の3種目リード、ボルダー、スピードのうちリード種目のみが競技として行われている。健常者と同

じ12m以上の壁を使い到達高度を競っている。なお障がいのためクリップ動作のできない選手がいるため全員トップロープで安全を確保して登っている。障がい者だからと言って特別な用具が必要なわけではなく、特別なルールもない。健常者と一緒に行えるスポーツである。

パラスポーツは障がいの種類や程度によってクラス分けがされている。パラクライミング競技にも障がい別に種別があり、また障がいの程度によってクラス分けがある。種別には大きく分けて視覚障がいと身体機能障がいがあり、公式大会に出場するためには診断書の提出とクラス分けを行う者による事前の運動機能チェックを受け出場するクラスが決定される。

Bクラス 視覚障がいの程度によってB1 B2 B3と

分けられる。1がより重い障がいとなる。

AUクラス 上肢機能障がい AU2 AU3 ※AU1は両腕欠損のため採用されていない。

ALクラス 下肢機能障がい AL1 AL2 AL1は手だけで登る（キャンパシング）ことになる。

RPクラス 関節可動域および筋力とその他の機能障がい RP1 RP2 RP3

これ以外の障がいについてはパラクライミングには取り上げられていない。

2 私とパラクライミングとの出会い

2003年クライマー仲間3人とともに広島市内にプライベートジムを作り一般の方にも利用してもらった。



写真①リード競技用クライミングウォール 広島県福山市エフピコアリーナふくやま

同時期に当時勤務先であった広島市立本川小学校の体育館内にボルダー壁を作り（保護者の会であるおやじの会が中心になって）体育の授業や4年生以上のクライミングクラブの時間に使用する。

広島でスポーツクライミングにかかわっている頃、NPO法人モンキーマジックの小林幸一郎氏（視覚障がいクライマー）から広島で視覚障がい者のクライミングスクールを開催してもらえないかという依頼があった。本川小学校には市内で2か所しかない通級での目の教室があり、その子供たちも体育館にあるボルダー壁を使って学習をしていたこともあり、小林氏からの依頼を受け入れクライミングジムで視覚障がい者のクライミングスクールを始めることとなった。



写真②広島市立本川小学校体育館にあるボルダリングウォール クライミングクラブでの様子

スクールを開始するにあたって、NPO法人モンキーマジックから研修会も開かれそれに参加し、視覚障がい者に対してどのような声掛けが必要かなどを研修していった。広島でのスクール以外にも2007年から高知市で開催された視覚障がい者のクライミング体験会にも参加し視覚障がい者と交流をしていった。

そんな活動をしていくうち、高知のパラクライマーたちがパラクライミング世界選手権に出場すること

になりサイトガイド（視覚障がい部門にはホールドの位置関係等を地上から指示をすることができ、その指示をする者のこと）として2012年フランス・パリで開催された世界選手権大会に同行した。それから2019年フランス・ブリアンソンの世界選手権大会まで計5回サイトガイドや日本パラクライミング選手団監督として日本チームに同行した。

当初、視覚障がい者にどのように接していいか分からなかった自分が、障がい者も同じ人間で特別な人間ではないということに彼らと活動を共にしていく中で気づいていった。

3 パラクライミングのパイオニア 小林幸一郎

2006年ロシア・エカテリンブルグで開かれた第1回パラクライミング大会に小林幸一郎選手が日本人として初めて出場し、視覚障がい者男子部門で優勝。ここから日本のパラクライミングの歴史が始まった。小林幸一郎選手はこれより日本のパラクライミング界を牽引していくことになる。

小林氏は高校2年生の時、フリークライミングと出会いその魅力に取りつかれクライミングにのめり込む。仕事もクライミングも充実している28歳の時、突然目の難病を発病する。失意の中、「あなたは何を



写真③2019パラクライミング世界選手権での表彰台に立つ小林幸一郎選手 フランス・ブリアンソン

2. 登山界の現状と課題

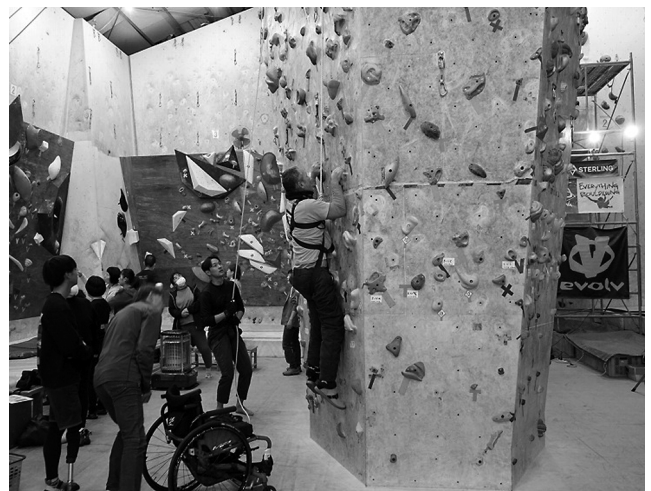
したいか。どう生きたいか。」というケースワーカーからの助言を聞いたり、全盲でありながら6大陸のすべての最高峰に登ったアメリカ人のエリック・ヴァイエンマイヤー氏との出会いがあったりして前向きに生きることを決意。2007年37歳の時NPO法人モンキーマジックを設立。障がい者と健常者のクライミング交流イベントを通じて社会における多様性の理解を促進する活動を開始する。小林氏は障がい者のクライミングを広める活動を通して、その活動に参加した人たちに競技としてのパラクライミングを紹介していった。現在は、NPO法人モンキーマジック代表としての活動だけでなく一般社団法人日本パラクライミング協会（JPCA）共同代表としてパラクライミング競技の普及発展にも尽力している。

4 障がい者へのクライミング普及活動

小林氏はNPO法人モンキーマジックを立ち上げたとき、クライミングが障がい者の自立に役立つと考え、視覚障がい者のクライミングスクールを東京で始める。そしてその活動を全国に広めようと活動していった。その活動で私も小林氏の思いにふれ広島でのスクールを開始する。しかし視覚障がい者に限定したスクールはある程度の成果は上がったものの次第に先細りとなっていく。そこで2012年、すべての障がい者と健常者のクライミング交流イベントを通じて、社会における多様性の理解を促進する活動へと方向を変えて活動する。東京での活動がある程度軌道に乗ると全国にその活動を広めていく。地方の拠点となる施設と理解者を探し、全国に活動拠点を広めていった。広島でも私が経営するクライミングジムで2017年から「もみじモンキー」という名称で活動を始めていった。現在以下18の地域で活動が広がっている。国民体育大会のスポーツクライミング競技（日本のスポーツクライミング競技の広が

りは国民体育大会に採用されていることも要因として挙げられる。）のように47都道府県日本中すみずみまでとはいかないが、日本の多くの地域でクライミングを楽しむ障がい者が増えてきている。そしてそれぞれの活動場所からパラクライミング日本選手権大会等の競技会に出場する人も出てきている。広島で行っているもみじモンキー参加者からもパラクライミング競技に出場する選手が出てきている。

- ① マンデーマジック東京（東京都）
- ② マンデーマジック横浜（神奈川県）
- ③ えぞモンキー（北海道）
- ④ 函ZARU（北海道）
- ⑤ つるぎモンキー（富山県）
- ⑥ 甲斐モンキー（山梨県）
- ⑦ 尾張でらモンキー（愛知県）
- ⑧ はんなりモンキー（京都府）
- ⑨ なにわモンキー（大阪府）
- ⑩ 鳥モンキー（鳥取県）
- ⑪ 出雲スサノオモンキー（島根県）
- ⑫ 桃モンキー（岡山県）
- ⑬ もみじモンキー（広島県）
- ⑭ 阿波ZARU（徳島県）
- ⑮ ポレポレクライミング部（高知県）



写真④もみじモンキーAL1の車いすの方の登り 広島 クライムセンターCEROにて

表1 世界選手権大会出場者数 メダル獲得数

回	開催年	開催国	都市	出場者数	金メダル	銀メダル	銅メダル
1	2011	イタリア	アルコ	5	2	1	0
2	2012	フランス	パリ	6	1	3	0
3	2014	スペイン	ヒホン	10	4	1	0
4	2016	フランス	パリ	4	2	0	1
5	2018	オーストリア	インスブルック	8	2	1	1
6	2019	フランス	ブリアンソン	16	3	3	1
7	2021	ロシア	モスクワ	8	2	0	1
8	2023	スイス	ベルン	16	3	3	2

⑯ よかモンキー（福岡県）

⑰ 北九モンキー（福岡県）

⑱ くまモンキー（熊本県）

現在では北は北海道から南は九州までクライミングを楽しむ障がい者の方々がいる。そして地方からも競技スポーツとしてパラクライミングに取り組む障がい者が生まれてきている。

5 パラクライミング世界選手権

パラクライミング競技を日本に紹介することとなった大きなクライミングイベントが、2010年千葉県習志野市で開かれた第1回ブラインドクライミング国際大会であった。これは今のパラクライミングワールドカップに相当する大会で、この大会には視覚障がい部門だけでなく他の障がいの部門も設けられ海外からも選手が集まった。日本初の国際パラクライミング大会は日本のパラクライマーに多くの刺激を与えるものであった。

翌2011年にはイタリア・アルコでIFSC主催のパラクライミング世界選手権大会が開かれた。この大会から健常者の世界選手権と同時に開かれるようになる。IFSCとはThe International Federation of Sport Climbingの略で、スポーツクライミング競技を統括している国際団体である。日本山岳・ス

ポーツクライミング協会（JMSCA）もIFSCに代表団体として加盟している。

この第1回大会に視覚障がい部門3名、身体障がい部門2名の計5名の選手が出場した。2012年にはフランス・パリで、アルコ大会同様に健常者と同一箇所期間で第2回大会が開かれ、第3回は2014年にスペイン・ヒホンで開かれた。この3大会までは、日本選手権に出場した選手のうち世界選手権大会に出場したい選手が“自己申告”で日本代表になり出場していた。日本でパラクライミング競技をやっているパラクライマーはまだ少数で、同じように世界選手権に出場する各国の選手レベルにもばらつきが大きい時期であった。



写真⑤2018パラクライミング世界選手権 決勝前のオブザベーション オーストリア・インスブルック

2. 登山界の現状と課題

2016年の世界選手権は日本国内でのパラクライミング日本選手権でカテゴリーが成立（当時は出場選手が3名以上いること、現在は4名以上）し、1位の選手を代表に選考した。3名以上集まらなくて成立しなかったカテゴリーもあった。そのため4名という過去最少の選手を大会に送り込むしかなかった。

（日本代表を選考する権限は代表団体であるJMSCAにあった。）この年からは国内の日本選手権大会で代表選考を行い、世界大会に派遣する基準が確立されていった。

世界選手権は2年に1回開かれ、日本チームは毎回選手団を編成し出場している。メダル獲得数は常に世界のトップ3に入っていて、健常者の日本チームの活躍と比べても見劣りしない成績を収めている。

クライミングを競技スポーツとして取り組む障がい者が増え、カテゴリー内で切磋琢磨し日本代表を目指し、さらに世界選手権でのメダル獲得を目標に日々練習を重ねていって日本の競技レベルが上がっていった。

6 パラクライミング日本選手権大会

2007年から日本山岳協会（現在のJMSCA）主催のスポーツクライミング日本選手権にパラクライミ

ング部門も併設、開催された。

2016年からは単独で開催となり代表選考も基準が設けられた。パラクライミング日本選手権は、2018年の3回まで明治大学和泉キャンパス体育館のクライミングウォールでJMSCAの主催大会として開催した。大会費用も最小限で手作りの大会であった。参加者も第1回は16名 第2回19名 第3回は29名と回を重ねるごとに着実に増えていった。カテゴリーの成立も増えていき2016年パリ・パラクライミング世界選手権に4名の代表選手だったのが、2018年インスブルック・パラクライミング世界選手権には8名の代表選手を送り込むことができるようになった。回を重ねるごとに参加者、カテゴリーが増えてきている。

2018年4月からはJMSCAから分離し任意団体の日本パラクライミング協会（JPCA）を立ち上げ、初代会長を私が引き受け日本選手権を開催し代表選考を行う。（私は2年間会長職を行った。）

2020年には任意団体から一般社団法人に法人化して現在の活動に移った。法人化してからはそれまでの日本選手権大会をジャパンシリーズ第1戦・第2戦とし、神奈川県秦野市の神奈川県山岳スポーツセンターと広島県福山市エフピコアリーナふくやまを



写真⑥JMSCA主催のパラクライミング日本選手権大会2018 表彰式 東京 明治大学和泉キャンパス体育館



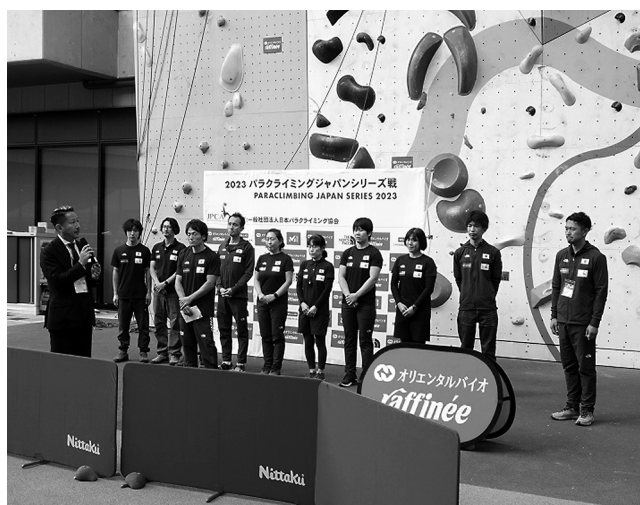
写真⑦2023ジャパンツアー第1戦 決勝前のオブザベーション 広島県福山市 エフピコアリーナふくやま

会場に開催している。神奈川県と広島県での2都市で開催するのは、東日本と西日本とで開催することでパラクライミングを多くの方に知ってもらい、また選手がより参加しやすいように東西2都市で開催している。

7 パラクライマーの現状

2023年スイス・ベルンでの世界選手権に出場した日本代表16名のうち、7名がアスリート採用の選手であった。世界選手権での日本人の活躍（特に小林幸一郎選手と會田祥選手のBクラスでのメダル獲得）によってパラクライマーの企業へのアスリート採用も増えており、選手が練習に打ち込める環境が向上してきている。また、日本パラクライミング協会に対して支援をする企業も数社に及んでいる。2006年小林氏が初めてロシアでパラクライミング競技を行った当時からすると現在の状況は想像すらできない時代である。さらに日本パラクライミング協会主催の大会だけでなく、障がい者自らが大会を企画運営し草の根のクライミングコンペを実施するようにもなってきた。

パラクライミング世界選手権大会国別ランキング



写真⑧世界選手権入賞者に報奨金がJPCAスポンサーから渡される。2023ジャパンツアー第1戦 福山市エフピコアリーナふくやま

で日本が常にトップ3に入ることができるのは、協会や選手の努力、パラクライミングの普及のための地道な活動等が積み重ねられてきた結果である。さらにパラスポーツが特別なものではなく健常者と変わらないものであると認める社会があつてのことである。

2028年ロサンゼルス・パラリンピックでは、パラサーフィンとともにパラクライミングが追加種目として検討をされている。もしパラリンピックの競技種目に追加となればメディアの注目も上がり、世間にパラクライミングの魅力が広く知られ、パラクライミング競技を目指す障がい者もより多く現れてくると思われる。そして日本全国のクライミング施設で、健常者であろうが障がい者であろうが関係なくクライミングを愛するすべての人が、一緒に登って楽しんでいる光景が普通である世の中になることを願っている。

参考文献

小林幸一郎 見えない壁だって、越えられる。飛鳥新社2015年発行

資料

JMSCA 登山月報 540号 547号 563号 571号
575号 585号 588号 595号 606号
一般社団法人日本パラクライミング協会HP
NPO法人モンキーマジックHP